

## 「読書の秋 本の向こうに広がる世界」

私は、小学校2年生の時、急性腎炎という病気にかかり1か月ほど学校を休んだことがあります。その時に、子供向けの伝記シリーズが発刊されはじめ、布団の中で10冊ほど読んだことが私と本の最初に出会いました。ある日の昼過ぎにうとうととしていたら、枕元に大好きなベブルースが来て、野口英世やキュリー夫人もその後ろを歩いていくという超常現象を体験。今から思えば夢を見ていただけなのですが、当時は、伝記の人物に会ったと大変喜んでおり、今でもその時の映像が思い起こせます。

本を読むことが面倒くさかった私にとって、病気が本を読むきっかけとなりましたが、子供たちそれぞれに、本と出会うきっかけを持たせたいと思っています。

1年前の教育ミニ集会において、読書推進について話し合い、「地域がやれること」として朝の図書館開館を行っていただきました。今週の来館者は、47人(月)・44人(火)・55人(水)・33人(木)・57人(金)と平均47人となっています。

今は、低中学年が中心ですが、陸上部の朝練習がなくなる期間、吹奏楽部も朝練習が休みの日には、図書館に足を向けるように、高学年の子供たちにご家庭で声をかけていただきたいと思います。

大リーグで活躍した松井秀喜選手は、高校時代から読書家でしたし、サッカーの長谷部選手も読書家として有名ですね。指揮者の小澤征爾さんはエッセイを書いて出版もされています。時代は大きく変わっても、読書をすることで出会える世界の広さは変わらないと思います。



本の向こう側に広がる世界をたくさん追体験させてあげたいと思います。

10月と11月は図書委員が読書フェアを開き、様々な企画が用意されています。

来週11日には先生方によるオープン読み聞かせが行われ、読書フェアのこけら落としを行います。

朝の図書館に今の倍の子供たちが通い、本の向こう側に広がる世界を楽しませたいと考えています。ご家庭での声掛けをよろしくお願いいたします。

## 「21日の窓ふきにご協力ください」

21日(日)におやじの会主催の窓ふきが行われます。今回は、教室と廊下の間にある欄間窓の窓ふきを中心に予定しています。

学校に来校されると気づくと思いますが、少し高い位置にあるこの窓は、私が着任してから一度も拭かれていないところがほとんどで、白くにごってしまっています。

周囲の環境は、そこで生活している子供に無言の影響を与えています。これを業界用語では、「隠れたカリキュラム」と言います。

「窓が透明できれいだ」ということだけですが、子供の心や学習に知らず知らずのうちに大きな影響を与えているのは確かです。生徒指導上の課題を抱える学校は、必ずといっていいほど窓は汚いです。おやじの会主催の窓ふきへの多くのボランティア参加をお待ちします。お子さんを連れて参加していただいても結構です。バケツの水替えなど子供ができる仕事もたくさんありますので、半日みんなで学校をきれいにしてみませんか?よろしくお願いいたします。